

# 山形から「冬」を追う 大自然が創り出す 異世界の中で

昨夜から降り始めた雪が、米沢の街を白く染めている。積雪に埋もれた溪流を撮りたくて、最上川の源流のひとつ、綱木川(つなぎがわ)へと向かった。

途中、小野川温泉郷を通り過ぎる。平安時代に小野小町が発見し、伊達政宗にも愛された由緒ある名湯だ。米沢の奥座敷と呼ばれるこのエリアは蛍の郷としても知られており、夏の夜には数万匹の蛍が飛び交う幻想的な光景を楽しめるそうだ。

さらに上流をめざして山間部に入ると、途端に積雪が多くなる。道沿いの民家は深い雪に埋もれ、屋根から雪下ろしをしている家も何軒かあった。豪雪地帯の宿命とはいえ大変な作業である。

吾妻山に端を発する綱木川の流れはまだ細く、新雪に覆われながらも静かに谷間を下っている。一面の銀世界で道の分からなくなった雑木林を抜けるため、カンジキを履く。毎年履いているので慣れてはいるが、半身雪に埋もれながら歩くので、遅々として前に進まない。川岸にたどり着く頃には、凍てつくような気温にもかかわらず一汗かいている。自分の体からうっすら湯気が立ち上っているのが見える。

大自然が創り出した、異世界のような雪景色。真冬の溪流には、厳粛ながらも爽快な美しさがある。流れを正面から撮りたくて、膝上まで川に入りカメラを構える。雪解け水は身を刺すように冷たかった。



【写真1】米沢市の山間部で撮影した綱木川。国道2号をさらに上流へ向かうと、天元台スキー場や400年の歴史を誇る湯治場・白布(しらぶ)温泉がある。  
【写真2】りんごとワインの里として知られる朝日町で撮影した最上川。両岸にはりんご畑が続いている。収穫が終わったりんご畑は、深い雪に埋もれて長い眠りについていた。  
【写真3】西川町で撮影した寒河江川(さがえがわ)の上流。深い谷を覗き込むと、黒い溪流が静かに流れ、氷と雪が厳しい冬の造形美を創り出していた。  
【写真4】戸沢村で撮影した角川(つのかわ)。早朝、木々の小枝は夜露が凍って白い花を咲かせ、岩々には新雪が積もり雪だるまのようになっていた。

